

5039

(有) 椿窯

TSUBAKIGAMA

事業所名	(有) 椿窯	FAX番号	0561-48-1538
代表者名	林 栄治	Eメール	tubakigama@nifty.com
所在地	〒489-0009 瀬戸市水北町532	ホームページ	http://tsubakigama.com/
連絡先	0561-48-1265	部 会 名	テーブルウェア部会

祖父が窯焼をやっており、父がそこで修行しました。

1972年瀬戸で椿窯として開窯し、私で二代目になります。父は、銅板転写による染付(和食器)を主に焼いてきました。

私は、名古屋造形短期大学彫刻科を卒業し、家業を継ぐ前に京都で10年間修行しました。当時から当窯は、京都の小売店とお取り引きがあり、その縁もあって京都の訓練校でろくろなどを学び、卒業後、割烹食器を扱う窯元で修行しました。

私の代になり、父が造り続けている染付もありますが、彫刻科を専攻した事もあって、形に拘った器が多く、形状は洋の美しいラインを用い、釉薬は天然灰を使った和のテイストに仕上げ、そのバランスを大事に思っています。

灰釉は灰を直接買い付け、独自で「ブレンド」し、当窯の特徴である3色を表現しています。

白は、イスという木の灰を主な原料としており、昔は高級磁器の原料として使われていました。少し濁った柔らかい白で、純白ではないので和・洋料理などによく合います。

緑は、松の灰を主な原料とし、灰の中に含まれる鉄分の量が他の灰より多く緑色になり、自然の優しい青磁です。オーガニック菜料理にピッタリです。

黒は、いろいろな木の灰に鉄分を多く加え、黒釉にしています。艶があり、よく見ると透き通ったこげ茶で、野菜の色がより鮮やかに見え、使いやすい色です。

また、染付では手描きで転写では表現できない呉須の淡さ、柔らかさを心掛けています。自分が一般消費者の立場に立って、作陶する上で和に携わる人、洋に携わる人両方が新鮮に思えるバランスを心掛けています。

また、下請けの生地屋さんも多くお取り引きさせて頂いていますので、いろいろな物に対応でき、ある程度の量産、また小回りのきく会社であります。

自社のギャラリー、イベントでの直販もあり、インターネット販売もしておりますが、今後はそれをもっと強化していきたいと思っています。



シルエット (染付)



イス灰釉シリーズ (白)



エンジェルフラワー (染付)



松灰釉シリーズ (緑)



片手鍋 (一人用)

両手鍋 (一人用)



天目釉シリーズ (黒)



桐唐草模様 (転写)

和食器

洋食器

中華食器

用品
インテリア

花器

神仏器

陶芸用品

下絵加工
上絵付及び

その他

灰釉

鉛釉

黄瀬戸釉

瀬戸黒釉

青磁釉

天目釉

柿釉

志野釉

御深井釉

古瀬戸釉

鉄釉

マント釉

染付

上絵付

その他